

自検協・全軽自協、世帯当たり普及台数を発表

自家用乗用車全体は4年連続で減少

自動車検査登録情報協会（自検協）は8月15日、2018年3月末時点における自家用乗用車（登録車と軽自動車の合算）世帯当たり普及台数を発表しました。

それによれば、自家用乗用車保有台数は前年度より約33万6千台多い61,354,808台で、外国人住民を含めた世帯数は前年度より約53万世帯多い58,007,536世帯でした。保有台数に比べ世帯数の伸びが大きかったため、世帯当たり自家用乗用車普及台数は昨年度から0.004台減少し、1.058台となっています。

また、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）は7月19日、2017年12月末時点の軽四輪車世帯当たり普及台数を発表しました。軽四輪車の保有台数は前年より約22万台多い30,771,278台で、外国人住民を除く世帯数は前年より約39万世帯多い56,613,999世帯でした。その結果、軽四輪車の世帯当たり普及台数は前年より0.0001台増え、0.5435台となりました。

自家用乗用車が世帯当たり1台以上普及しているのは40道県、1.5台を超えているのは12県となり、どちらも前年同様の結果となりました。軽四輪車が世帯当たり1台以上普及しているのは6県、0.5台以下は8都道府県となり、こちらも前年からの増減はありませんでした。

軽四輪車は新型車効果などによって、2017年の新車販売台数が2年ぶりに前年を上回ったことが、世帯当たり普及台数の微増につながりました。

一方、登録車は2017年の年間（1～12月）では新車販売台数が前年を上回ったものの、2017年4月～2018年3月の年度では前年度から減少したため、保有台

数の伸び率が鈍化し、自家用乗用車普及台数の微減につながったと考えられます。

表1 自家用乗用車保有台数と世帯当たり普及台数
(都道府県別・ランク順)

2018年3月末時点 出典：自動車検査登録情報協会

都道府県	保有台数	世帯数	1世帯 当たり台数	順位	前年 順位
福井	510,664	292,518	1.746	1	1
富山	709,095	418,653	1.694	2	2
山形	693,912	413,685	1.677	3	3
群馬	1,374,564	841,085	1.634	4	4
栃木	1,331,957	826,672	1.611	5	5
茨城	1,969,772	1,235,665	1.594	6	6
岐阜	1,295,731	816,077	1.588	7	7
岐阜	1,295,731	816,077	1.588	7	7
長野	1,371,957	866,562	1.583	8	8
福島	1,221,251	781,157	1.563	9	9
新潟	1,389,204	895,463	1.551	10	10
山梨	554,017	358,393	1.546	11	11
佐賀	503,093	330,790	1.521	12	12
石川	719,260	482,491	1.491	13	13
三重	1,154,690	789,961	1.462	14	14
鳥取	344,490	236,209	1.458	15	15
静岡	2,211,704	1,571,636	1.407	16	16
岩手	738,266	524,685	1.407	17	18
島根	407,702	290,245	1.405	18	19
滋賀	797,983	572,842	1.393	19	17
秋田	592,583	425,933	1.391	20	20
岡山	1,154,990	841,911	1.372	21	21
徳島	455,334	334,916	1.360	22	22
香川	586,927	438,842	1.337	23	23
熊本	1,030,141	776,133	1.327	24	24
宮城	1,288,913	989,296	1.303	25	25
沖縄	837,419	643,056	1.302	26	26
大分	689,890	535,794	1.288	27	27
宮崎	673,640	523,791	1.286	28	29
愛知	4,164,071	3,257,903	1.278	29	28
山口	820,611	660,004	1.243	30	30
青森	727,122	591,371	1.230	31	31
和歌山	538,876	440,666	1.223	32	32
鹿児島	948,105	807,682	1.174	33	33
愛媛	739,821	653,377	1.132	34	34
高知	395,677	352,538	1.122	35	37
広島	1,450,761	1,308,439	1.109	36	35
奈良	651,197	590,664	1.102	37	36
長崎	694,568	633,972	1.096	38	38
福岡	2,582,964	2,398,419	1.077	39	39
北海道	2,794,896	2,772,845	1.008	40	40
千葉	2,799,238	2,851,491	0.982	41	42
埼玉	3,195,629	3,259,736	0.980	42	41
兵庫	2,308,833	2,524,247	0.915	43	43
京都	998,498	1,210,844	0.825	44	44
神奈川	3,057,677	4,280,874	0.714	45	45
大阪	2,762,304	4,261,381	0.648	46	46
東京	3,114,811	7,096,622	0.439	47	47
合計	61,354,808	58,007,536	1.058		

表2 軽四輪車保有台数と世帯当たり普及台数
(都道府県別・ランク順)

2017年12月末時点 出典：全国軽自動車協会連合会

都道府県	保有台数	世帯数	1世帯 当たり台数	順位	前年 順位
佐賀	338,629	326,852	1.04	1	1
鳥取	241,671	233,689	1.03	2	2
長野	875,760	850,381	1.03	3	3
島根	288,921	285,536	1.01	4	5
山形	415,091	410,683	1.01	5	4
福井	285,097	284,603	1.00	6	6
山梨	335,119	350,920	0.95	7	7
沖縄	596,719	634,252	0.94	8	8
新潟	825,812	887,052	0.93	9	9
宮崎	478,364	519,808	0.92	10	10
徳島	299,235	331,153	0.90	11	11
富山	366,434	408,943	0.90	12	12
和歌山	391,107	437,368	0.89	13	13
岩手	461,867	520,807	0.89	14	14
秋田	374,306	423,903	0.88	15	15
岡山	721,330	824,725	0.87	16	16
鹿児島	697,324	801,769	0.87	17	17
香川	372,846	430,824	0.87	18	18
熊本	661,792	766,811	0.86	19	19
高知	301,405	349,672	0.86	20	20
群馬	693,931	812,666	0.85	21	22
福島	659,846	774,192	0.85	22	21
三重	645,657	763,683	0.85	23	24
岐阜	667,046	789,295	0.85	24	23
大分	442,335	526,986	0.84	25	25
滋賀	456,068	558,509	0.82	26	26
長崎	503,396	626,758	0.80	27	27
愛媛	515,372	644,630	0.80	28	28
青森	459,143	588,220	0.78	29	29
茨城	926,702	1,200,492	0.77	30	30
山口	498,131	650,076	0.77	31	31
静岡	1,149,106	1,530,446	0.75	32	32
栃木	604,340	805,143	0.75	33	33
石川	353,190	473,305	0.75	34	34
宮城	624,477	976,755	0.64	35	35
広島	812,681	1,277,485	0.64	36	36
奈良	347,610	584,206	0.60	37	37
福岡	1,340,253	2,350,245	0.57	38	38
愛知	1,617,529	3,135,416	0.52	39	39
兵庫	1,075,994	2,468,124	0.44	40	40
京都	507,855	1,176,451	0.43	41	41
北海道	1,161,425	2,750,340	0.42	42	42
千葉	1,148,712	2,777,169	0.41	43	43
埼玉	1,304,298	3,178,275	0.41	44	44
大阪	1,156,811	4,134,707	0.28	45	45
神奈川	961,718	4,186,841	0.23	46	46
東京	808,823	6,793,833	0.12	47	47
合計	30,771,278	56,613,999	0.54		



サービスの強化で 幅広い顧客ニーズに対応

株式会社黒坂自工

代表者：黒坂広文社長
所在地：青森県八戸市大字十日市字黒坂38番地1

来店したいと思われる店作り

青森県の東部、太平洋に面する八戸市に工場を構える黒坂自工が創業したのは2006年のことです。創業者である黒坂広文社長は専門学校を卒業後、ディーラーで整備士として5年、新車営業マンとして6年経験を積み、独立開業を果たしました。

2007年には整備認証工場認可を取得し、本格的に整備事業を開始しています。現在は整備2人、中古車販売1人、事務1人、パートスタッフ2人と黒坂社長の7人で、各種業務に対応しています。

「以前は車両を引き取りに行くことが多かったのですが、移動時間などを考え、お客様にご来店いただけるお店作りを目指しました」。オイル交換割引券や作業後のていねいな説明など、顧客に来店して良かったと感じさせるサービスを継続したことで、徐々に来店入庫の比率が増加しています。

顧客に再び来店してもらうためには、顧客のニーズをくみ取り、適切なサービスを

提供することが求められます。「NGPリサイクル部品は品質が良く、リーズナブルなため、お客様へ積極的に提案しています。またNGPは対応も迅速なので、いつでも安心して使うことができます」。NGPリサイクル部品の活用が、顧客満足へとつながっています。

また黒坂社長はPTAの役員や消防団員を務めるなど、地域貢献に取り組んできました。その一環としてNGPベルマークサポーター工場の活動にも積極的に取り組んでおり、収集BOXで収集したベルマークは地域貢献に役立てられています。

顧客ニーズへの さらなる対応を目指して

2009年には市内の国道沿いに展示場を開設し、中古車販売を本格的に開始しました。大手ポータルサイトに中古車情報を掲載するなど集客に力を入れた結果、県外からの来店などにつながっており、売り上げ

は順調に推移しています。「整備サービスのほかに収益の柱を持ちたいと考え、中古車販売を開始しました。車販は保険販売につながり、整備事業の管理顧客数増加にも貢献しています。ゆくゆくは自動車に関することは何でも対応できる、トータルカーショップを目指していきます」。

2014年から新たにレンタカーサービスを開始するなど、顧客ニーズへの対応を目指した事業の拡大を進めています。今後も継続してさらなるサービス展開を図るためには、人材の確保・育成が重要となります。「これまでも就業規則を作成するなど、働きやすい環境を目指した取り組みを進めてきました。人材不足が深刻化する中において、次代を担う人材の育成は業界全体の課題だと認識しています。今後も労働環境の整備や人材育成の仕組み作りにも努めていきたいと考えています」。

自社、そして業界全体の将来を担う人材の育成に向けて、今後さらに力を注いでいく構えです。



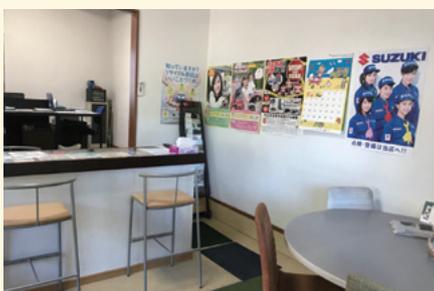
黒坂広文社長（中央）と整備担当スタッフの皆さん



整備工場外観



整備工場内部



整備工場の接客スペース



中古車販売展示場



展示場内の商談スペース

スキャンツールの好調などを受け、 販売総額は5年連続で1,000億円超え

日本自動車機械工具協会（機工協、柳田昌宏会長）は7月25日、2017年度の自動車機械工具販売実績を発表しました。販売総額は1,067億2,339万2千円となり、前年度（1,060億7,343万8千円）と比較してほぼ横ばい（0.6%増）で、2013年度から5年連続で1,000億円超えとなりました。

項目別では、エンジン診断用機器（30億8,889万6千円、同17.7%増）、環境整備機器（7億3,738万6千円、同16.6%増）、空圧電動工具（31億5,186万円、同15.0%増）、車体整備機器（22億6,179万4千円、同13.7%増）など11項目で前年度の販売実績を上回っています。そのうちバッテリー・クーラーサービス機器（22億2,532万5千円、同9.5%増）、洗車洗浄装置（89億7,868万2千円、同2.7%増）、ガレージ用一般機器（70億9,945万6千円、同1.3%増）の3項目は過去10年で最高額となりました。

洗車洗浄装置では、門型洗車装置（小型・普通車用）が39億8,605万5千円（同4.4%増）となり、2011年度以降台数・金額ともに上昇を続けていました。その要因について佐藤正幸流通委員長は「メカニックの不足による作業環境の改善及び効率化」を挙げ、「今後も安定した新規・更新需要が見込まれます」とコメントしています。

エンジン診断用機器では、スキャンツール（22億4,121万5千円、同20.2%増）が大幅に増加しており、「スキャンツール導入補助事業が実施されたこと、また先進安全技術の普及によりエイミング作業に不可欠なこと」などを受けて、需要が伸びたとの見解が示されています。

一方、前年度より販売実績が下回ったのは、自動車総合診断装置（57億4,466万2千円、同22.8%減）、塗装機器（11億9,874万9千円、同22.6%減）、各種システム（4億3,697万4千円、同24.9%減）など8項目です。

自動車総合診断装置では、検査場向け自動化ラインが前年度比で大きく減少しており、「検査場の新設及び設備更新の狭間と

なり、さらに北陸の大雪の影響で立ち上げ時期がずれ込んだ案件も発生したことなどの影響を受けたと考えられます」と、その理由を分析しています。

これらの結果を受けて、佐藤流通委員長は「2018年度に実施される優遇税制を活用し、先進安全技術の普及による整備高度化に対応した設備機器の導入を促進するとともに、整備士不足及び高齢化に伴う労働環境の改善、作業の効率化を目指した提案

をしていきます」と、今年度の方向性を示しています。



2017年度自動車機械工具販売実績

項目	販売金額 (千円)	対前年比 (%)	項目に占める 割合 (%)
自動車総合診断装置	5,744,662	77.2	5.4
車検機器	9,944,450	98.2	9.3
洗車洗浄装置	8,978,682	102.7	8.4
リフト・ジャッキ・プレス	18,099,213	102.0	17.0
(車載用)	0	-	0.0
エアコンプレッサー	2,468,965	95.3	2.3
空圧電動工具	3,151,860	115.0	3.0
ハンドツール	7,876,901	95.3	7.4
(車載用)	27,946	150.5	0.0
車体整備機器	2,261,794	113.7	2.1
塗装機器	1,198,749	77.4	1.1
バッテリー・クーラーサービス機器	2,225,325	109.5	2.1
エンジン診断用機器	3,088,896	117.7	2.9
エンジン整備用機器	552,466	101.3	0.5
ディーゼル用機器	32,828	96.7	0.1
ブレーキ・ホイールサービス機器	5,937,744	98.3	5.6
(車載用)	0	-	0.0
ガレージ用一般機器	7,099,456	101.3	6.7
注油脂機器	2,030,337	103.1	1.9
各種システム	436,974	75.1	0.4
環境整備機器	737,386	116.6	0.7
その他	24,856,704	106.1	23.3
総合計	106,723,392	100.6	100.0
(車載用合計)	27,946	150.5	0.0

NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

平成30年7月: **3,086t**

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含むと115品目）を対象に算出した数値です。



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

平成30年7月: **3.8t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

NGP組合員 かわら版

第31回経営者研修会を開催 経営者に必要な知識を修得



8月24～27日の4日間、BumB（ぶんぶ）東京スポーツ文化館（東京都江東区）で第31回経営者研修会が開催されました。

佐藤幸雄理事長は参加メンバーを前に「西日本の記録的な大雨の際にも全国各地のNGPメンバーが結束することで迅速な対応をすることができました。今この場にいる皆さんもNGPメンバーとして結束力と誇りを持ち、運命共同体として一緒に頑張っていきましょう」と挨拶

をし、「年々、車体の構造や材質が変わり、自動運転も目の前に迫り、業界として厳しい状況になっています。しかし、そのような環境だからこそ、順応すれば利益を生むことは可能です。今回の研修で得た知識を会社に持ち帰り、経営者としてビジネスチャンスをつかんでください」と激励しました。

4日間の研修でNGPメンバーとしての団結力、経営者として必要なコンプライアンスや企業会計、業界動向などを学ん

だ(有)まこと商会の村田眞一郎さんは「社員へ会社の現状と、これからどう変わろうと考えているかをしっかり伝えます」と決意を表明し、(株)コマゼンの大園明哉さんは「この研修会で色々な出会いがあり、NGPの輪が広がって行くことを実感しました。この出会いを大切に、運命共同体NGPをもっともっと盛り上げていきます」と感想を述べました。

「NGP年末ジャンボキャンペーン2018」絶賛開催中！！

当選者数は前回の750名から1,000名に大幅アップ！！



皆様から大変なご好評をいただいております「NGP宝くじキャンペーン」の第4弾、「NGP年末ジャンボキャンペーン2018」が、只今絶賛開催中です。キャンペーン期間は9月1日～11月30日までの3ヵ月間です。

前回同様、NGPリサイクル部品に添付されるギャランティシールを3枚集め、応募用はがきに貼り付けて応募いただく

と、抽選で合計1,000名の方に「年末ジャンボ宝くじ」をプレゼント致します。今回は過去にご応募いただいた方のリクエストに応え、当選者を大幅に増やしました。

応募用紙は各NGP組合員より皆様に配布するほか、当組合Webサイト (<http://www.ngp.gr.jp/>) からダウンロードすることも可能です。

なお、ギャランティシールの下側に付いているベルマークは、必ず切り離してからご応募下さい。切り離したベルマークは近隣の学校にご提供いただき、地域社会への貢献にご活用いただければ大変嬉しく思います。

お一人様何口でもご応募いただけます。皆様からのご応募を心よりお待ちしております。

プレゼントクイズ

Q. これは、
どの車種の一部？



■NGPニュース No.328 (2018年7月号) プレゼントクイズの正解はダイハツのミラでした。北海道、富山県、愛知県在住の方3名様に1万円相当のクオカードをお送りします。今後も奮ってご応募ください。

クイズに正解した方の中から、抽選で3名様にクオカード1万円分をプレゼント！

下記の応募用紙に解答と必要事項を記入して、FAXにて「プレゼントクイズ」係までお送りください。ご応募の締め切りは10月25日到着分までとさせていただきます。正解はNGP11月号にて発表いたします。なお、当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

「プレゼントクイズ」係 応募用FAX番号 03-5475-1209

解答	お名前	職業	電話番号	年齢	性別
				歳	男・女
住所：〒					
NGPニュースで取り上げてほしいテーマ：					

※ご記入いただいた内容は賞品の抽選・通知・発送のほか、今後の本サービスの参考とするためにのみ使用させていただきます。

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
南関東	㈱オートパーツ神奈川	社名変更	㈱コーエイ リサイクルパーツ・厚木店	30年9月1日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<http://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<http://www.ngp.co.jp/>